

日本史探究

日本史探究

〔Ⅰ〕以下の問いに答えよ。

問1 縄文時代の人々は、あらゆる自然物や自然現象に精霊・霊などの存在を信じたと考えられている。この信仰を何というか答えよ。

問2 縄文時代の人々が、貝殻などの食物の残り滓を捨てたものが堆積した遺跡のことを何というか答えよ。

問3 縄文時代の精神生活を伝える遺物として妊娠した女性をかたどったものが多い粘土で作ったものを何というか答えよ。

問4 縄文時代の頭蓋骨に見られ、成人したことを示す儀式と考えられている風習と何か答えよ。

問5 縄文時代より始まると考えられている死者の手足を折り曲げて埋葬する方法を何というか答えよ。

問6 弥生時代に稲作が伝わると、社会構造に変化が生じ始め、治水・灌漑などの共同作業とを指導したり、稲作の儀礼を司ったり、他の集団との交易や争いなど、政治的な権限が一人の人物に集中し始めた。このような人物を何と呼称するか答えよ。

問7 以下の『魏志』倭人伝の一節を読んで、下の①～③の問いに答えよ。

其の国、もともと男子をもつて王と為す。住まること七、
八十年、倭国乱れ、相攻伐して年を歴たり。乃ち共に一女
子を立てて王と為す。名を（A）と曰ふ。鬼道を事とし、
よく衆を惑はす。年すでに長大なるも、夫婦無し、男弟有
りてたすけて国を治む。王と為りてより以来、見ることに有
る者少なし。婢千人をもつて自から待らす。唯男子一人有
りて飲食を給し、辞を伝え居所に出入りす。
……（A）もつて死し、大いに塚を作る。径百余歩、
御葬する者、奴婢百余人。更に男王を立つるも、国中服さ
ず。更々相誅殺す。時に当りて千余人を殺す。また（A）
の宗女壹与、年十三なるを立てて王と為す。國中遂に定まる。
……

- ① （A）に入る人物名を答えよ。
- ② （A）が埋葬された墓は、どんな墓か答えよ。上記、『魏志』倭人伝文中の言葉を
使って答えよ。
- ③ （A）の人物の後継者は、どんな人物であったか、上記、『魏志』倭人伝文中の言
葉を使って2名を答えよ。

〔Ⅱ〕次の文を読み、以下の問いに答えよ。

天武天皇と時代に始められた歴史書の編纂が、奈良時代に完成した。一つは「帝紀」と「旧辞」を稗田阿礼が読み、太安万侶が筆記した『①』、もう一つが中国の史書にならない漢文で編年体を用いて書かれた『②』である。また、日本列島内の各国ごとに地理・産物・伝説などをまとめさせた『③』を提出させた。『③』は、現在5カ国のみがまとまった形で伝えられており、重要な資料となっている。

11世紀ごろになると国文体で物語風に記された歴史物語が作られるようになった。藤原道長の栄華を編年体で記した『④』、紀伝体で記した『⑤』が代表的なものとして挙げられる。いくさを主題材とし、武士の活躍に特化した軍記物語も成立し平将門の乱を描いた『⑥』はこの初期のものである。平氏一門の栄枯盛衰を仏教的無常感をもって琵琶法師により語り継がれた『⑦』、鎌倉幕府の滅亡から南北朝の騒乱までを南朝側の視点で記された軍記物『⑧』は共に傑作とされる。

鎌倉時代には、1180年（治承4）以降から1266年（文永3）までの鎌倉幕府で起こった出来事を編年体・日記体裁で記した歴史書『⑨』、南北朝期になると、やはり鎌倉幕府の滅亡から南北朝期を、史実に沿って足利方の視点で描いた歴史書『⑩』、編年体で公家の視点から鎌倉時代の公武関係を記した歴史物語『⑪』、北畠親房によって書かれた南朝の正統性を歴史の流れから論証しようとした史論書『⑫』などが編纂された。

このような「歴史物語」・「歴史書」・「史論書」に加え、古文書や絵画資料、金石文など多岐にわたる歴史的な作品・遺物が重要な歴史資料となっている。

問 『①』～『⑫』内に入る作品名を答えよ。

〔Ⅲ〕次の文を読み、以下の問いに答えよ。

織田信長は、^a尾張国の守護代の一族であったが、経済力にめぐまれた濃尾平野を基盤に台頭し、1560年（永禄3）、（ ① ）の戦いで、東海地方の有力な戦国大名であった今川義元を破り、ついで、^b美濃国の戦国大名であった斎藤氏を滅ぼして、1568年（永禄11）には足利（ ② ）を擁して京都に入り將軍職につけた。

畿内に進出した織田信長は、堺の自治権を奪って直轄地とし、ついで（ ③ ）の戦いで、戦国大名の浅井氏・朝倉氏の連合軍を破り、また多くの僧兵を擁して反抗していた延暦寺を焼き討ちにした。1575年（天正3）には鉄砲を多用して、（ ④ ）の戦いで武田勝頼を破り、これまでの戦術を一変させた。1576年（天正4）には、^c安土城を新しい居城として築き、ここを本拠地として天下統一を進めた。しかし、1582年（天正10）、（ ⑤ ）の変で明智光秀に襲撃されて死亡した。

織田信長の家臣であった羽柴秀吉は、（ ⑥ ）の戦いで明智光秀を破り、翌年には柴田勝家を、^c越前国の北庄に滅ぼして、織田信長の後継者としての地位を獲得し、大坂城を築いて全国制覇の拠点とした。羽柴秀吉は、朝廷の権威を背景に自己の権威付けをおこない、1585年（天正13）、朝廷で最高の地位である（ ⑦ ）となり、翌年には後陽成天皇から（ ⑧ ）の姓を与えられ、1588年（天正16）には後陽成天皇を京都の（ ⑨ ）にむかえて、諸大名に天皇と秀吉への忠誠を誓わせた。そして、1590年（天正18）には、^d小田原城の城主である（ ⑩ ）氏を滅ぼして、伊達政宗以下の東北地方の諸大名をも服属させて、全国統一の事業を完成した。

問1 （ ① ）～（ ⑩ ）に入る適切な語句を答えよ。

問2 下線部 a～下線部 c について、現在の何県に該当するのか、その県名を答えよ。

問3 下線部 A、下線部 B について、現在の何県に所在するのか、その県名を答えよ。

問4 豊臣秀吉がおこなった太閤検地の歴史的意義について80字以内で答えよ。

〔Ⅳ〕次の文を読み、以下の問いに答えよ。

第一次世界大戦後、イギリス、アメリカ、フランスなどの国々は、それぞれの勢力圏内で経済的結合を固めるブロック経済政策を採用したが、ドイツ、イタリアではファシズムの傾向が著しくなった。イタリアでは、1922年（大正11）に（ ① ）が、ドイツでは1933年（昭和8）に（ ② ）が政権を握り、いずれも独裁政治をおこなった。

国際連盟を脱退した日本は、ドイツ、イタリアと接近し、1936年（昭和11）に日独（ ③ ）を結び、翌年にはイタリアもこれに参加した。

満州事変以後、日本は満州の市場を独占したが、中国、アメリカ、イギリスなどの諸国はこれを強く非難した。1937年（昭和12）、北京郊外で日本軍が中国軍と衝突した（ ④ ）事件をきっかけに、両国軍は全面的な戦争に突入した。この時の（ ⑤ ）内閣は、はじめ不拡大方針を声明として出したが、戦闘は拡大していった。

日本軍は満州国の国境問題をめぐって、1938年（昭和13）、ソ連と満州国の国境の張鼓峰でソ連軍と衝突し、1939年（昭和14）、満州国とモンゴル国との国境の（ ⑥ ）でソ連軍と衝突して大敗した。

日本政府は、戦時体制を整えて、長期戦にそなえるため、1938年（昭和13）には（ ⑦ ）法を制定した。この法律は、戦争遂行のため、政府が議会の承認を経ずに、国内の人的・物的資源を動員しうるように定めたもので、議会の権限をほとんど無視するものであった。

満州事変を経て戦時体制へと進むにつれて、文化・思想統制も強化されていった。その結果、共産主義・社会主義に対して徹底的な弾圧がおこなわれた。1935年（昭和10）、^a美濃部達吉の（ ⑧ ）説が問題となり、その著書が発禁処分を受けた。

（ ⑨ ）年、海軍の青年将校が（ ⑩ ）首相を射殺した五・一五事件がおこり、1936年（昭和11）、陸軍の青年将校が軍部政権の樹立をはかるクーデターをおこした（ ⑪ ）事件がおこった。

問1 （ ① ）～（ ⑪ ）に入る適切な語句を答えよ。

問2 下線 a の人名の読みをひらがなで答えよ。